

## 子ども議員の紹介と質問内容

※1～2番：洞内小、3～10番：南小、11番：西小、  
12～20番：三本木小、21～25番：北園小



1番  
蛸名 俊一郎くん  
アスレチックなどの遊具をたくさん置いた公園を作ってみてはどうか。



2番  
野月 瞭太くん  
スポーツイベントを近隣市町村対抗で実施してはどうか。



3番  
葛西 寧子さん  
市内の交流できる施設を世代間交流の場としてもっと活用してはどうか。



4番  
佐々木 穂花さん  
市の良い所をテレビCMやホームページなどで、PRしてはどうか。



5番  
白岩 拳くん  
家族連れや若者が集まれるスペースを市の中心部に作ってはどうか。



6番  
常田 かの子さん  
市の観光名所を巡るスタンプラリーを実施してはどうか。



7番  
斗賀 麻穂さん  
市民みんながまちの中心に花壇を造り、植物を植える日をつくってはどうか。



8番  
堀井 瑞希さん  
健康診断の無料化の実施と健康相談カフェの設置してはどうか。



9番  
松田 友璃さん  
落ちていくゴミをすぐに捨てられるように歩道にゴミ箱を設置してはどうか。



10番  
和田 結稀さん  
環境整備作業を、ボランティアを募集するなどして積極的に行ってはどうか。



11番  
宮崎 里菜さん  
危険な用水路に落下事故防止のためのフェンスを設置してはどうか。



12番  
芋田 真晝さん  
公共施設などに障害者や高齢者に優しい設備を設置してはどうか。



13番  
蛸名 祥大くん  
観光客誘致のためアート作品や他にはないような建物を増やしてはどうか。



14番  
小川 紗彩さん  
大人も子供も楽しめる「十和田市クイズラリー」を実施してはどうか。



15番  
川村 知士くん  
小学生がボランティア体験できるイベントを実施してはどうか。



16番  
工藤 大夢くん  
お年寄りのために道路の段差解消や手すりを設置してはどうか。



17番  
高村 晴稀くん  
世代別の屋内交流施設を整備してはどうか。



18番  
手代森 嵩葵さん  
生きがいづくりのために、田や畑を貸し出しするシステムを構築してはどうか。



19番  
中島 雪さん  
市の自然を知ってもらうために身近なものに市の花や緑を取り入れてはどうか。



20番  
畑中 常似くん  
子供達が集中して勉強・活動できるように学校にエアコンを設置してはどうか。



21番  
岡沼 春翔くん  
アーケード（中心市街地）のポスターを作って全国にPRしてはどうか。



22番  
気田 くるみさん  
観光客や市民が歩いて楽しめる小川の流れる自然な公園を設置してはどうか。



23番  
田端 凌子さん  
1カ月に1回市民アンケートを実施し、改善した内容を新聞に発表してはどうか。



24番  
三ツ森 心一朗くん  
いじめ防止を呼び掛けるポスターを作成し、掲示してはどうか。



25番  
米田 小太郎くん  
町内会などの活動で町内会同士が連携し、掃除や危険な場所の確認をしてはどうか。



# とわだ子ども議会

7月26日、市議会議場で「とわだ子ども議会」が開催されました。これは、子どもたちが議会を模擬体験することで、議会や市の仕組みを学び、市について考え、郷土を愛する心を育むことを目的に、平成25年度から行っているもので、今回で4回目の実施となります。

### 子ども議員緊張の一日

「ただ今から、平成28年度とわだ子ども議会を開会します。」

静まり返った議場に議長長の米田太郎くんの開会宣言が響き渡り、子ども議員が開会しました。

一番の蛸名議員から質問が始まりました。各議員の質問は、公共施設、観光、健康、教育、農業、都市整備など多岐にわたります。子どもたちの目に今の市がどう映っているのか、市の問題点やその解決策の提案などが次々と出され、その内容には、子ども議員ならではの固定観念にとらわれないたくさんのアイデアが盛り込まれていました。

子ども議員からの質問に小山田市長と米田教育長が分かりやすいように丁寧に答弁していきます。緊張しながらも、大きな声でハキハキと質問をする子ども議員の様子からは、自分たちの手で市を良くし

たいという思いがひしひしと伝わってきました。

### 子ども議会の意義

子ども議会は、市のまちづくりのために小学生から見ると、「このまちがこうあればいい」、「こうして欲しい」という意見を子ども議員となつて、市に対し質問する議場体験学習です。

本番前に子ども議員は、議会や市の仕組みについての事前学習会に参加して、さまざまな疑問や意見を持ちます。それらをまとめ、当日議場で質問していきます。

子ども議員が市について勉強をすることで、自分たちのまちのことをどのような場所で、どのような人が、どのように決めているのかを学び、体験し、ふるさとを愛する心を育んでいくのです。

### 主な質問に対する答弁

#### (12番の質問についての答弁)

障害者や高齢者が利用しやすいまちづくりをするために公共施設などに車いすを配備し、段差解消などのバリアフリー化を進めています。環境の整備だけでなく、市民一人一人が他人事ではなく、自分にも関わる大事なことでありと自覚し、助け合い理解し合う心のバリアフリーも大事なことだと考えています。

#### (15番の質問についての答弁)

昨年のB・1グランプリでは多くの小学生の皆さんに活躍していただきました。市では、こうしたボランティア体験によって得られる楽しさや魅力、「思いやり」の心を伝えて、小学生の皆さんも参加できるボランティア活動の機会を増やしていきたいと考えています。

#### (24番の質問についての答弁)

いじめ防止に関するポスターは、関係団体で作成したものや各学校で自校の課題に引き合せて作成したより効果的なポスターが学校内に掲示されています。市では、昨年度の「いじめ追放キャンペーン」に引き続き、今年度は「いじめ追放集会」を実施することで、さらにいじめを許さないという意識を高めたいと考えています。

### 期日前投票所を増やしてはどうか

平成27年度子ども議員  
宮田あかりさんの質問から  
平成28年7月10日の参議院議員選挙から2カ所（市民交流プラザ「タワーレ」とイオンスーパーセンター十和田店）の期日前投票所を増やしました。



市民交流プラザ「タワーレ」



イオンスーパーセンター十和田店

### 月に1回「市民ふれあいイベント」を実施してはどうか

平成27年度子ども議員  
鳥谷部凜さんの質問から  
中心商店街に高齢者が気軽に参加できる集いの場を設け、介護予防に関する知識の普及や体力づくり、介護相談に応じるため、市民交流プラザ「タワーレ」で「タワーレdeいきいき交流会」（毎週金曜日開催）をスタートさせました。



今年4月15日から始まった「タワーレdeいきいき交流会」の様子

### 市民みんなが市の歴史や文化を知るための「十和田検定」を行なってはどうか

平成25年度子ども議員  
平野重也加さんの質問から  
昨年11月7日(土)に、小学5・6年生を対象とした「ゆるりら、十和田こども検定」を実施しました。今年度も11月12日(土)に実施予定です。



これまでの子ども議員の質問に関連した事業がいくつか進捗していますので、その一例をご紹介します。

## 追跡 「とわだ子ども議会」のその後



子ども議会終了後、当選証書を手にした小山田市長（中央）、西村副市長（中央左）、米田教育長（中央右）と記念撮影

## INTERVIEW

### 子ども議会について語る

#### 議長は貴重な経験でした

議長は他の人よりも話すことが多いけど、こういう経験はなかなかできないと思い、引き受けました。議長席はすごく高い場所にあるので、全ての場所が見渡せたけど、みんなの視線が集まる瞬間があって、その時は緊張しました。

今日の経験は、今後、別な何かの代表になった時にその役割に取り組める自信となりました。実際の議員は選挙で選ばれるので、18歳になって選挙に参加できるようになったら、積極的に投票に参加していきたいです。



議長 米田 小太郎くん

#### 落ち着いて議事の進行ができました

副議長をやってもらいたいと依頼されたときは、本番に弱いタイプなので、臨機応変に対応できるか心配でしたが、いい経験になると思って、引き受けることにしました。議長席からの眺めは、全体が見渡せて、しかも市長の上に私が座っているの（緊張して）怖かったです。

当日は、自分の質問が終わるまでは緊張しましたが、質問が終わってからは、スッキリした気分でした。議事進行中は、子ども議員が話している内容も頭に入ってくるくらい落ち着いていられました。



副議長 宮崎 里菜さん

#### ふるさとに誇りをもって欲しい

今まで4回、子ども議会を開催してきましたが、子ども議員は高齢者問題やまちづくり、まちの活性化のことなど市政のあらゆることに興味を持っているという印象を受けました。そして、子どもたちがこのまちのことをこれほどまでに熱心に考えていることを知り、立派に成長していると感じています。

議会がどのように運営されているのか、また行政と議会の関係や役割などを学ぶことができたのではないかと思います。子ども議員には、この経験を生かして、これからも自分たちが住んでいるまちに、なんらかの形で関わって欲しいと思います。そして、これから進学や就職で市を出ていく人もいます。そういう場合でもふるさとに貢献してくれる大人になって欲しいと思います。

子どもたちが一生懸命考えて提案したことについては、既に取り組んでいるものもありますが、できるだけ子どもたちの意見を尊重して市政に取り入れていきたいと考えています。

また、この子ども議会では、市の

市の子どもたちは、学業もスポーツも頑張っていて大変うれしく思っています。勉強と併せて、ふるさとのことも見て学び、そして、誇りに思ってもらいたいですね。



十和田市長 小山田 久

子どもたちは、大人が思っているよりも、ずっと物事を柔軟にさまざまな角度から見つめています。大人が思いもつかないような提案を自信を持って堂々と提案する子どもたちの姿には、まちを良くしたいという力強さを感じられました。

市内には市のことが好きで、好きなまちのために真剣に考えて、問題に向き合おうとする子どもたちがたくさんいます。これは誇りであり宝です。

「私たちの住んでいる十和田市って、自然が豊かで食べ物がおいしくて、どんな人にも優しい住みやすいまちなんだよ」と子どもたちが自慢できるまちにしてあげるのが、現在のこのまちと共に生きている大人たちです。そのため、子どもたちの自由な意見を耳を傾け、伸び伸びと成長できる舞台をつくってあげるのが大人の責任です。

6年後には、子ども議員たちも18歳になり選挙に参加できます。まちづくりを担う一員となった彼らがその時どのようなふるさとを見つめ、考え、一票を投じるのか。未来をつくる主役を共に大切に育てていきたいものです。

### 未来をつくる主役